

## 平成24事業年度決算

■貸借対照表の概要(詳細は22～23ページに掲載しています。)

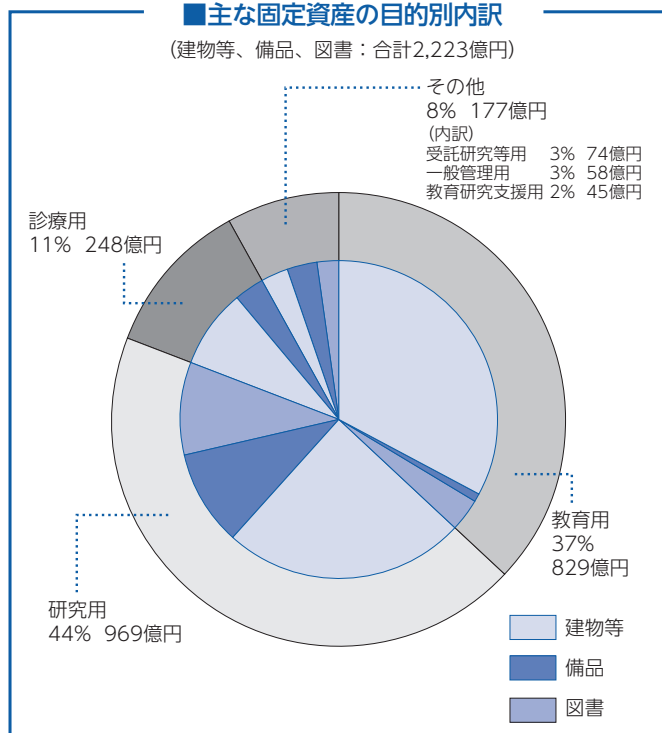
(単位：億円)

	資産の部	負債の部	
	土地 1,666 (1,666)	資産見返負債 <sup>※4</sup> 822 ( 790)	国立大学法人特有の科目(28ページ参照)
約670万冊所蔵 約13万冊増 (13ページ参照)	建物等 <sup>※1</sup> 1,531 (1,464)	借入金 170 ( 194)	国立大学財務・経営センター債務負担金 約138億円 長期借入金 約32億円
農学研究科附属農場移転地(京都府木津川市)の一部購入及び左京区役所跡地の購入 約3億円増	備品 359 ( 372)	長期未払金 103 ( 113)	PFI事業の未払金等 (柱)総合研究棟V (柱)福利・保健管理棟 (柱)総合研究棟Ⅲ(物理系) (南部)総合研究棟 (北部)農学部総合館改修
	図書 333 ( 334)	寄附金債務 163 ( 150)	
	建設仮勘定 45 ( 42)	未払金 229 ( 216)	
	投資有価証券 96 ( 96)	その他 283 ( 164)	
	長期性預金 <sup>※2</sup> 26 ( 46)	<b>負債合計 1,770 (1,627)</b>	
大口定期預金 (満期まで一年超のもの)	現金及び預金 <sup>※3</sup> 540 ( 166)		
	有価証券 210 ( 210)	<b>純資産の部</b>	
	未収入金 110 ( 79)	資本金 <sup>※5</sup> 2,737 (2,445)	国から出資された土地、建物、備品等の見合い額
	棚卸資産 9 ( 4)	資本剰余金 193 ( 156)	
	その他 40 ( 34)	利益剰余金 <sup>※6</sup> 248 ( 268)	
	<b>資産合計 4,965 (4,513)</b>	当期末処分利益 17 ( 17)	平成24事業年度に発生した利益剰余金 =当期総利益
		<b>純資産合計 3,195 (2,886)</b>	
		<b>負債・純資産合計 4,965 (4,513)</b>	

( ) は平成23事業年度実績

### ■主な固定資産の目的別内訳

(建物等、備品、図書：合計2,223億円)



### 【平成24事業年度末の貸借対照表に関する特記事項】

#### (※1)建物等 1,531億円(67億円増)

平成24事業年度は、施設整備事業として行った桂キャンパス総合研究棟Ⅲ(物理系)、メディカルイノベーションセンター棟および吉田国際交流会館の新築等により約165億円増加した一方で、減価償却費累計額等が約98億円増加しています。

#### (※2)長期性預金 26億円(20億円減)

#### (※3)現金及び預金 540億円(374億円増)

現金及び預金は、産学共同の研究開発による実用化促進(大学に対する出資事業)のための資金交付(350億円)と長期性預金からの振替(20億円)等により増加しています。

#### (※4)資産見返負債 822億円(32億円増)

#### (※5)資本金 2,737億円(292億円増)

産学共同の研究開発による実用化促進(大学に対する出資事業)に伴う増資等により増加しています。

#### (※6)利益剰余金 248億円(20億円減)

利益剰余金は、第1期中期目標期間(平成16～21事業年度)の積立金のうち、第2期中期目標期間への繰越が認められた「前中期目標期間繰越積立金」の残額と、第2期中期目標期間(平成22～23事業年度)の利益剰余金の残額で、現金の裏付けのある目的積立金相当約32億円と、帳簿上の利益である積立金相当約216億円からなります。

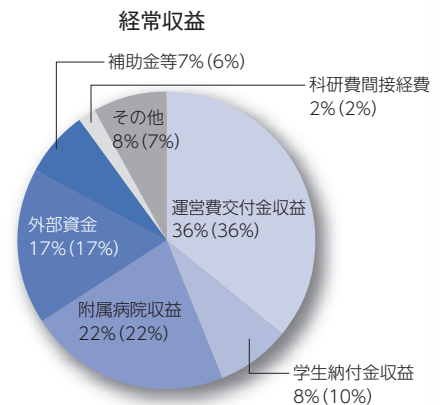
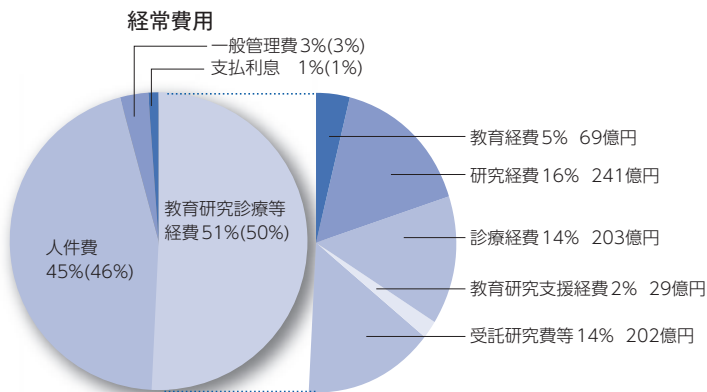
■損益計算書の概要(詳細は24ページに掲載しています。)

(単位：億円)

経常費用	
教育研究診療等経費	744 ( 723)
人件費	650 ( 656)
一般管理費	42 ( 42)
支払利息	9 ( 10)
経常費用合計	1,445 (1,431)
臨時損失	10 ( 2)
<b>当期総利益</b>	<b>17 ( 17)</b>
<b>計</b>	<b>1,472 (1,450)</b>

経常収益	
運営費交付金収益	520 ( 523)
学生納付金収益	122 ( 137)
附属病院収益	325 ( 315)
外部資金	246 ( 248)
補助金等	101 ( 91)
科研費間接経費	34 ( 33)
その他	119 ( 102)
経常収益合計	1,467 (1,449)
臨時利益	1 ( 0)
前中期目標期間繰越積立金取崩額	4 ( 1)
<b>計</b>	<b>1,472 (1,450)</b>

( ) は平成23事業年度実績



■当期総利益 17億円

平成24事業年度の当期総利益は約16.6億円です。このうち、本学の運営努力によって生じた利益が約0.6億円、資金の裏付けのない帳簿上の利益が約16億円です。その内容は次のとおりです。

■本学の運営努力による利益……………約0.6億円

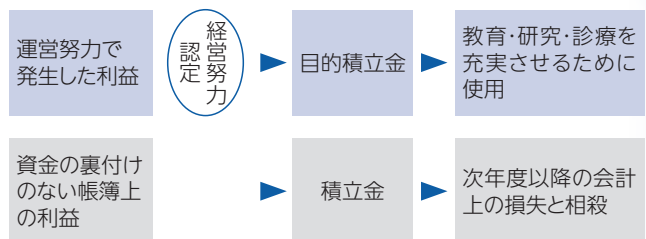
主な利益要因としては、経費の削減などがあげられます。この利益は、実際に大学の運営に使用できる資金の裏付けのある利益であり、文部科学大臣の経営努力認定を受けることを予定しています。

■資金の裏付けのない帳簿上の利益……………約16億円

国立大学法人会計においては、原則として損益が均衡するように制度が設計されていますが、一部の会計処理においては運営努力の如何に関わらず利益や損失が生じることがあります。

- ①附属病院に関する借入金の償還期間と、借入金により取得した資産の減価償却期間のずれから生じた利益(29ページ参照)……………約17億円
- ②自己収入(病院収入や間接経費など)により取得した資産の取得額と減価償却費の差から生じた利益(29ページ参照)……………約5億円
- ③その他さまざまな会計制度上の理由等による利益要因、損失要因により生じた利益……………約△6億円

【国立大学法人の利益】



国立大学法人には、株主のような営利目的の資本主が存在しませんので、利益を配当等として外部に分配することはありません。

そのため、獲得した利益のうち、運営努力から生じた利益については、文部科学大臣の経営努力認定を受けた後、次年度以降の教育・研究・診療を充実させるために中期計画の目的に従って使用することが認められています。(29ページ参照)